

第23回学術集会 交流セッション②活動報告

移乗・移動動作の看護技術の今昔物語 ～今はこう教えている、こう援助している～

移動援助に関する教育内容の今と昔

札幌保健医療大学 保健医療学部 看護学科 首藤 英里香

聖徳大学 看護学部 看護学科 平田 美和

神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 看護学科 荻原 典子

神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 看護学科 水戸 優子

京都大学 医学部 人間健康科学科 若村 智子

埼玉県立大学 保健医療福祉学部 看護学科 國澤 尚子

日本福祉大学 健康科学部 リハビリテーション学科介護学専攻 富田川 智志

京都先端科学大学 健康医療学部 看護学科 西田 直子

開催日時：2025年10月11日(土)14時20分～15時20分

会場：京都大学百周年時計台記念館 第4会場（会議室Ⅲ）

- ・移動動作評価班による今回のセッションでは、基本的な移乗・移動動作の看護技術の過去をふりかえり、現在の技術のあり方について教育および臨床の立場からディスカッションを行いました。
- ・最初に、床上移動および車いす移乗に関して**教育の立場**から、また**臨床の立場**から情報提供を行いました。その後、移乗・移動動作の看護技術について昔話から紐解きながら、会場参加者との意見交換を行いました。
- ・参加者数は60名を超え、私たちが企画した交流セッションのなかでは特に多い人数でした。
- ・当初グループワークによる情報共有を考えておりましたが、会場満員の状況を踏まえまして、全体での意見交換を行いました。質問や参考となる意見が活発に出て、とても有意義な時間になりました。その様子や参加者アンケートによる感想・意見をご紹介します。

移動動作評価班メンバーの8名です！



日本看護技術学会 第23回学術集会
2025.10.11 sat - 12 sun 京都



第23回学術集会 交流セッション②活動報告

交流セッションの進行

- 1) 西田班長による挨拶
- 2) 首藤氏から床上移動の今昔紹介
- 3) 平田氏からの車いす移乗の今昔紹介
- 4) 荻原氏から臨床現場での移動用具の今昔紹介
- 5) 会場参加者とのディスカッション



←会場の様子



↓用いられたスライドの一部

移動援助の際、ボディメカニクスを活用のみでは限界がある

- ・看護の援助として実践するときには、ボディメカニクスの限界や弱点を意識して活用する必要がある。その理由は...
- 第1: ボディメカニクスはもともと物体の物理学・力学的法則に基づいた理論である、第2: 看護におけるボディメカニクスは援助者主体の「介助」の視点で前提にしている、第3: 最も重要なことは、ボディメカニクスでは腰痛を予防できないという点
- ⇒これらを認識した上で、援助を受ける人と援助する人にとって安全で快適な方法を探ることが大切。「動く本人を主体とした援助」を行う(鈴木・若村2013)
- ・ボディメカニクスを活用しながらも、移動補助具(スライディングシート等)を使用した方法が実施者・対象者双方の負担の軽減に効果がある。
- ・対象者の持っている能力を活用できるような援助方法が重要である!

床上移動の援助方法

人力のみでの移動援助⇒対象者の状態をアセスメントした上で移動補助具を活用する方法

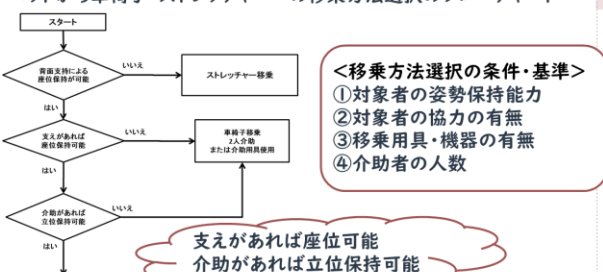
- ・臀部を上げられる対象者の場合

移動に支障となる摩擦部位である後頭部(枕の下)～肩甲帯周囲にシートを敷く



用具を使って楽に移動介助を! 移動・移乗技術Q&A ver.3 より抜粋

ベッドから車椅子・ストレッチャーへの移乗方法選択のフローチャート



出典) 日本看護技術学会 技術研究成果検討委員会 移動動作班(2022)用具を使って楽に移動介助を! 移動・移乗技術 Q&A Ver. 3.0, p9, <一部改変>

ボディメカニクス活用

- | 安定性 (介助者) | 効率性 |
|--------------------|-----------------|
| ①支持基底面を広くする | ①人の自然な動きを活用する |
| ②重心を低くする | ②対象者の支持基底面を狭くする |
| ③重心線を支持基底面の中心に近づける | ③身体に近づけて支える |
| (前傾姿勢にならない) | ④大きな(強い)筋肉を使う |
| | ⑤この原理を使う |
| | ⑥小さな力で回転させる |

ボディメカニクス活用の限界

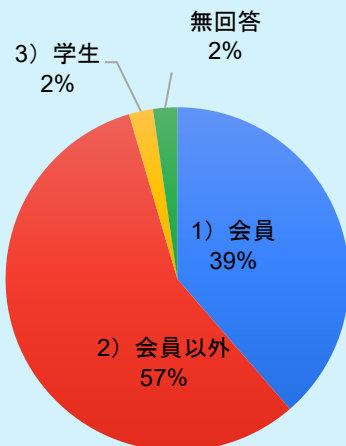
介助者2名以上の介助/用具の積極的な活用/残存能力活用

第23回学術集会 交流セッション②活動報告

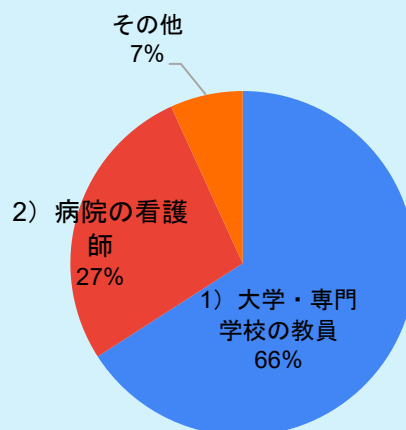
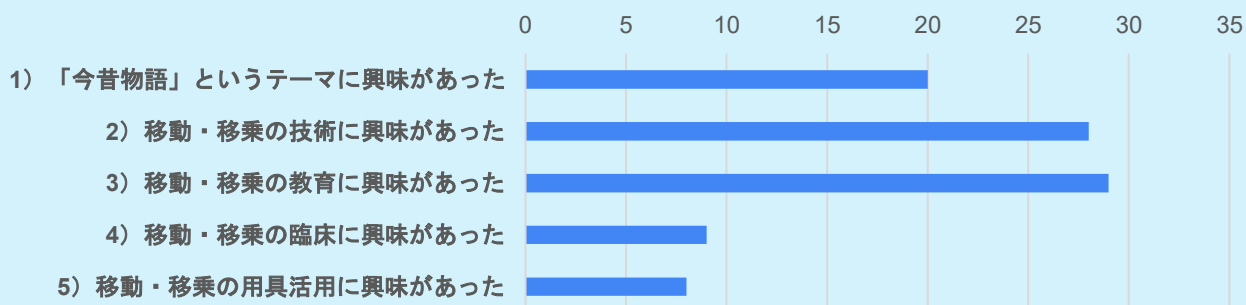
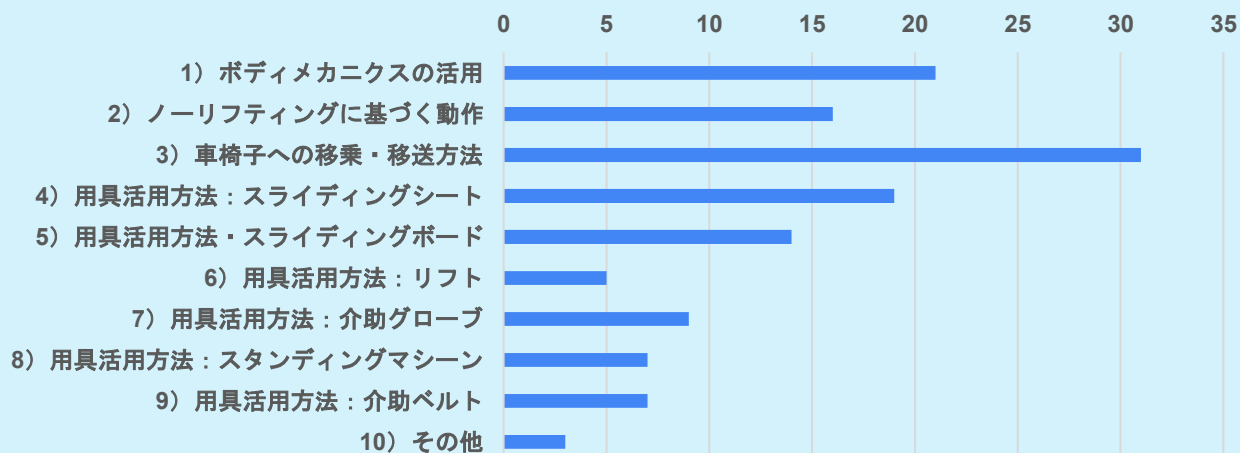
交流セッション②

✿参加者アンケートの結果を報告します（回答数44件）✿

1. 会員／会員以外



2. 所属

3. 本交流セッションに参加した目的
(複数回答あり) (人)4. 移動・移乗動作の技術において興味・関心を持っていること
(複数回答あり) (人)

第23回学術集会 交流セッション②活動報告

5. 移動・移乗動作に関して、もっと知りたいことやご提案

★移乗について★

- ・移乗の際に患者さんのズボンを持つ方法がまだ実習先では主流となっています
- ・実際に移乗の実践を見せていただけるとイメージしやすかったかもしれない
- ・2人以上の移乗方法を具体的に聞きたい

★ボディメカニクスについて★

- ・ボディメカニクスと補助具と手技と学生が患者さんの体格や状況に応じて、考えて選択できるように教えていくことが大切と思いました
- ・ボディメカニクスを活用した援助が中心に展開されており、知識が乏しかったのでとても勉強になりました
- ・ボディメカニクスを使用した車いす等への移乗方法において以前までと現在で変化している状況について勉強させていただきました
- ・キネステティックは、これまで取り入れていなかったもので、とても興味深かったです

★教育に役立てたい・知識が深まった★

- ・教科書と現場と繋ぐようにどう教えるか、考える機会となりました
- ・教授や看護師の視点でのセッションでしたので多々理解できなかったところがありましたが知識を深めるいい機会になりました
- ・学校での教育について知ることによって臨床での教育に役立てたいです
- ・色々な先生方のお話を伺い、今後の教育の参考に活かしていきたいと思いました
- ・他大学での移動・移乗に関する授業での取り組みを聞くことができて良かった
- ・今回基礎看護でこんなに移乗教育に苦勞していると思わなかった
- ・学校によって教育の違いなど、実際の教え方を聞くことができ勉強になりました
- ・一人で行なわないというのは大切で、誰かに声をかけることが当たり前に行える環境を整えることが重要と考えます
- ・教育に関するセッションがあり、とても参考になりました

★その他★

- ・臨床で働いているので、その都度患者さんのアセスメント必要だなと思いました
- ・個別に合わせて考える事は大切ですが、あいまいな内容となっていることが多く具体的な、基本的なポイント等があればわかりやすかった
- ・車いすシートについては、病棟にはありませんでしたが、リハビリ室にはありました。患者さんがリハビリから借りてきても病棟では指導できず、活用することはできませんでした
- ・移乗ボードやスライドシートに併せ、今後は移乗機器・起立補助機の使用機会も増加してくるかと考えております
- ・医療・介護従事者の方への課題解決と一環として『ノーリフティング』の浸透へ貢献できればと考えております
- ・なぜ普及にいたらないのか、情報、知識なのか、費用かなども気になりました。車いすにすわったときに、前傾姿勢でかたむきながら奥までしっかり座るという迫田先生のお話し興味ありました
- ・教育方法、評価方法について、今合わせた方法を検討する必要があることを、ぜひ学校に伝えたいと思いました
- ・大学（教育）現場でどう教え実践しているかを調査されてはいかがでしょうか

たくさんの感想・意見をありがとうございました。今後の活動に活かしていきたいと思えます。 移動動作評価班一同